## 調査研究

**美術館事業のすべての土台は調査研究にある。国内外の写真史・映像史・美術史や写真論・映像論・美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロス・オーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウム等に反映させている。**

【東京都写真美術館紀要No.7】

**中村浩美**

・「北欧2カ国をめぐる現代写真事情：フィンランド、デンマーク」

**三井圭司**

・「幕末期のパノラマ写真――東京都写真美術館蔵作品（収蔵番号20100448および20100449）を中心に」

**山口孝子**

・「ゾルフラクション法によるゼラチンバインダーの劣化分解の検出」

【論文等】

**石田留美子**

・「中国を読む：85美術新潮運動　忘れ去られた断裂」『アートコレクター』No.7、2008、pp.165-168

・「中国現代美術の現場から」『イメージ＆ジェンダー』vol.8、2008、pp.17-23

・「海外レポート　北京」『美術手帖』2007年5月号(vol.59,no.894)、pp.164-165

・「海外レポート　上海」『美術手帖』2007年1月号(vol.60,no.903)、pp.152-153

**岡部友子**

・「“また来たい”と思われる美術館となるために－東京都写真美術館の近年の取り組みとコレクション展示の活性化－特集：常設展示室で活きる博物館資料」『博物館研究』　vol.42 No.10(No.472)（財）日本博物館協会、pp.10-12

**Kasahara Michiko**

・"Japanese Women's Self-Awareness", global feminisms, new directions in contemporary art, merrell, Brooklyn Museum, pp. 97-105, 2007

**金子隆一**

・「書誌解題」『日本写真史の至宝　福原信三『巴里とセーヌ』』国書刊行会、2007、pp.3-6、pp.10-13(English)

**関次和子**

・「自然写真の未来へ　動物写真家・前川貴行の仕事」柏崎市立博物館、「The World of Wild Animals 奇跡の瞬間・前川貴行の世界」展カタログ、pp.8-9

**神保京子**

・痙攣する美：写真とシュルレアリスム[Ⅰ]「シュルレアリスムの概念／誕生の頃――アジェとシュルレアリスム／写真とイマージュ」『季刊 インターナショナルアートマガジン・アヴァンガルドVol.3：特集シュルレアリスム』AVANTGARDE: International Art Magazine, Vol.3, 2007 Summer, Interarte, pp.110-121

・痙攣する美：写真とシュルレアリスム[Ⅱ]「日本におけるシュルレアリスムの受容」『季刊 インターナショナルアートマガジン・アヴァンガルドVol.4』AVANTGARDE: International Art Magazine, Vol.4, 2008, Interarte, pp.122-129

**藤村里美**

・「写真にみる田園風景」『田園賛歌ー近代絵画に見る自然と人間』読売新聞東京本社、美術館連絡協議会　pp.254-256

**三井圭司**

・「イメージとピースの間で　古写真を観つづけるために」『未来』未來社、2007年6月号（no.489）、pp.5-9

・「幕末・明治の写真」『幕末ニッポン』株式会社角川春樹事務所、2007、pp.101-109

**山口孝子**

・「2006年写真の進歩，展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第70巻3号、（社）日本写真学会、2007、pp.166-167

【学会発表等】

**石田哲朗**

・「日常における写真と美術館をつなぐ：東京都写真美術館の教育普及プログラム」平成19年度第3回・美術科教育学会東地区研究会パネルディスカッション「学校と連携を進める美術館―過去・現在・未来」東京都写真美術館アトリエ、2007年11月10日

**笠原美智子**

・「女の目・男の目　人間の目から見る身体と乳房～シリーズ・ワコールポスターを見ながら（2）」乳房文化研究会定例研究会（株）ワコール、2007年10月13日

・「美術館と指定管理者制度～東京都写真美術館の事例を通して」博物館問題研究会2007年11月例会、文京区男女平等センター、2007年11月18日

**金子隆一**

・「文化財としての写真」平成19年度画像保存セミナー、日本写真学会、東京都写真美術館ホール、2007年11月2日

・「写真史の中の内田九一」古写真研究国際カンファレンス、長崎大学図書館、2007年11月16日

**関次和子**

・「写真史から見た自然」柏崎市立博物館秋期特別展講演会、

2007年10月14日

**Jimbo Kyoko**

・Portfolio Review, Photomonth in Krakow, organized by Foundation for Visual Arts, Manggha Centre of Japanese Art & Technology, ul. M. Konopnickiej 26, 30-302 Krakow, Poland , 12th of May, 2007

**三井圭司**

・「東京都写真美術館所蔵《長崎パノラマ》について」古写真研究国際コンファレンス、長崎大学図書館、2007年11月17日

**山口孝子**

・「ゾルフラクション法によるゼラチンバインダーの劣化分解の検出」2007年度日本写真学会年次大会、千葉大学けやき会館、2007年5月24日　大柴直也・柴史之・大川祐輔による共同研究

・「写真材料への燻蒸剤の影響」第27回防虫防菌処理実務講習会、横浜情報文化センター、2007年10月18日

・「東京都写真美術館における作品保存について」平成19年度画像保存セミナー、日本写真学会、東京都写真美術館ホール、2007年11月2日

【非常勤講師等】

**石田哲朗**

・実践女子大学文学部博物館学課程美術史概論A,B、通年

**岡村恵子**

・桜美林大学総合文化学群、アートマネジメント論、前期集中

**笠原美智子**

・明治学院大学大学院文学研究科芸術学、美術史特殊講義Ⅲ、通期

・「美術と展示の現場」神戸芸術工科大学デザイン教育研究センター公開特別講義2007、2007年6月28日

・女子美術大学特別講義、現代写真とジェンダー、2007年9月19日、26日

**金子隆一**

・武蔵野美術大学造形学部、写真論、写真概論、通年、

・武蔵野美術大学造形学部大学院写真コース、写真特論Ⅱ、通年

・東京大学教養学部、比較芸術論演習Ⅱ、後期

・東京綜合写真専門学校写真芸術第2学科、ゼミナール、通年

**関次和子**

・青山学院大学、映像文化論、通期

**丹羽晴美**

・法政大学国際文化学部国際文化学科写真論、隔年後期

・学習院女子大学国際文化交流学部国際文化交流実習（美術）、前期集中

**藤村里美**

・武蔵大学人文学部ヨーロッパ比較文化学科、ヨーロッパの芸術、前期

**三井圭司**

・明治学院大学文学部芸術学科、写真史写真理論研究A・B、前期・後期

・北海道教育大学教育学部岩見沢校、メディアデザイン理論Ⅲ、後期集中

**山口孝子**

・東海大学課程資格教育センター、博物館学実習Ⅰ写真技術、春・秋学期集中

・東京文化財研究所、保存担当学芸員研修、劣化と保存　各論－写真－、2007年7月19日

・国立国会図書館、写真の保存方法、2008年3月12日

【委員・審査員等】

**笠原美智子**

東京国立近代美術館写真作品評価員、新進芸術家海外留学制度及び国内研修制度選考委員（文化庁）、財団法人西洋美術振興財団賞審査委員、財団法人周南市振興財団　林忠彦賞選考委員、東川賞審査員（東川町）、ヒロシマ賞候補作家推薦委員（広島市）、財団法人五島記念文化財団五島記念文化賞美術新人賞候補者推薦委員、MIO写真奨励賞審査員（天王寺ターミナルビル株式会社）、the Award Committee for the Hasselblad Foundation International Award in Photography for 2008、nominator for the KLM Paul Huf Award

**金子隆一**

第3回名取洋之助写真賞審査員、日本写真保存センター設立推進連盟諮問委員、日本写真文化協会2007全国展審査員、東京国立近代美術館資料収集委員会委員、高浜市やきものの里かわら美術館運営委員、横浜美術館資料収集委員会委員

**Nakamura Hiromi**

Guest curator, "A Private History", the FOTOGRAFISK CENTER, Copenhagen, Denmark, September 29 - December 21, 2007

**丹羽晴美**

福島市写真美術館企画専門委員

**山口孝子**

日本写真学会編集委員、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター設立委員会調査委員

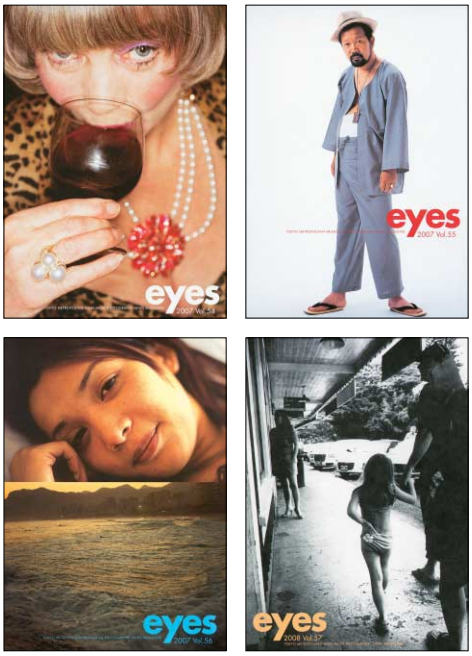
## 広報事業

**開館12年目の平成19年度は、お客様や記者とより親密な関係が築けるよう、広報面でも「対話する美術館」を実践した。**

**1　広報誌「写真美術館ニュースeyes（アイズ）」発行（vol.54～vol.57）　発行部数：30,000部**

＜巻頭記事＞

54号「マーティン・パー写真展FASHION MAGAZINE」
55号「東松照明：Tokyo曼陀羅」
56号「日本の新進作家VOL.6 スティル／アライヴ」
57号「森山大道展　レトロスペクティヴ／ハワイ」




写真美術館ニュースeyes（アイズ）54～57号表紙

**2　ホームページの活用**

平均アクセスは40万超PVで平成18年度に比べ微減した。これは平成19年3月にホームページメンテナンスを行った際に、サイトのフレーム構成を整理したためで、ユーザーへの情報提供は以前より速やかに行われるようになったと考えられる。新着情報を強調し、トップページだけで多くの情報が見渡せるページ作りを心がけ、展覧会情報のほか、館運営ミッションや年報の全ページ公開、外部評価の公表など、館外からも当館の活動全般に触れることのできるコンテンツを充実させた。新しく学芸員によるブログページも立ち上げ、展覧会の準備や館のライブな活動を日記的な表現で親しみやすく公表した。また、年間を通して展覧会と館に関連した検索キーワード広告を出稿しアクセスを促した。

**3　プレスリリース作成・発送およびプレス取材対応**

リリース数は各回約660件（前年比約9%増）。また、電話・FAX・メールでの記事掲載対応の他、取材依頼、撮影・収録・オンエアーの立ち会いなどをおこなった。

**4　チラシ・ポスターの配付**

マスコミ、美術館、写真、教育関係など各所にチラシ・ポスター等の掲出物を送付。特にギャラリーや教育関係など配布箇所を増やし、配下を強化した（約250件）。「映像をめぐる7夜」展（平成20年2月21日（木）～2月24日（日）、2月28日（木）～3月1日（土）入場無料）ではチケット型チラシを作成し、内外に広く無料を告知した。

「映像をめぐる7夜」展チケット型チラシ

**5　懸垂幕、壁面スペースへの掲出**

JR恵比寿駅側の懸垂幕、壁面スペースへの掲出や、恵比寿ガーデンタワー側の巨大写真掲出および縦位置壁面スペース（3枚）の利用で、写真美術館の活動やイメージを発信した。

お正月開館告知より縦位置壁面スペース掲出例

## 6　広告スペースへの掲出

### （1）交通広告

年間を通じて首都圏ＪＲ・地下鉄の窓上広告、ＪＲ恵比寿駅東口改札内柱広告、恵比寿スカイウォーク入り口電飾広告を掲出した。

### （2）新聞広告

展覧会やイベントを広く告知するために、新聞広告を掲載した。出稿は下記の通り。

（ア）「昭和　第2部」
　朝日新聞　平成19年7月18日（水）東京本社版夕刊（約210万部）
　5段1/2モノクロ

（イ）「昭和　第4部」
　朝日新聞　平成19年10月24日（水）東京本社版夕刊（約210万部）
　夕刊アート欄下　半5段モノクロ

（ウ）「東松照明：Tokyo曼陀羅」
　読売新聞　平成19年10月27日（土）東京本社版夕刊（約240万部）
　全5段モノクロ

（エ）「お正月開館告知」
　朝日新聞　平成19年12月26日（水）東京本社版夕刊（約210万部）
　夕刊アート欄下　全5段モノクロ

（オ）「シュルレアリスムと写真　痙攣する美」
　朝日新聞　平成20年3月上旬　東京本社版夕刊（約210万部）
　記事下5段1/2モノクロ（予定）

「東松照明」「昭和4部」「お正月」新聞広告掲出例

### （3）アドカード（ポストカード型広告）／DUE（しおり型広告）

（ア）「昭和　第2部」DUE
　平成19年7月9日（月）～ 20,000枚

（イ）「鈴木理策：熊野、雪、桜」アドカード
　平成19年8月30日（木）～ 10,000枚

（ウ）「東松照明：Tokyo曼陀羅」アドカード
　平成19年10月25日（木）～ 15,000枚、DUE
　平成19年10月25日（木）～ 20,000枚

（エ）「映像をめぐる7夜」DUE
　平成20年1月28日（月）～ 30,000枚

「昭和　第2部」「鈴木理策：熊野、雪、桜」「東松照明：Tokyo曼陀羅」「映像をめぐる7夜」アドカード・DUE

## 7　記者懇談会・記者会見の実施

### （1）記者懇談会①「平成18年度活動報告」

恒例となった記者懇談会に加え、カフェでの懇談を行い記者との対話を深めた。

平成19年5月16日（水）15:00～16:30

**＜主なプログラム＞**

【第1部】4階会議室

平成18年度の実績報告

平成19年度年間活動方針

【第2部】1階カフェ「シャンブル・クレール」
カフェ懇談（新メニュー試食会）

**（2）記者懇談会②「平成19年度新収蔵作品の特別実見」**
収集予算にて購入した新収蔵作品をいち早くマスコミに公開した。
平成20年1月18日（金）16:00～17:30
**＜主なプログラム＞**
【第1部】4階会議室
平成18年度事業外部評価の報告について
平成19年度及び平成20年度新企画の紹介
【第2部】1階創作室
平成19年度新規収蔵作品の紹介・実見
懇談（1階カフェ「シャンブル・クレール」）

## 8　プレス向けギャラリーツアーの実施

主要収蔵展および自主企画展について、特別鑑賞会と同日に、プレス向けギャラリーツアーを開催。学芸員と作家自身による展覧会説明を積極的に行った。
実施回数：14回

「鈴木理策：熊野、雪、桜」

「昭和　第4部」

「東松照明：Tokyo 曼陀羅」

## 9　年始特別開館

平成20年の正月特別開館（平成20年1月2日（水）～4日（金））では、2日は入場無料、3日・4日は割引料金を設定した。期間中は、特別フロアレクチャーや雅楽コンサート、プレゼントや限定メニューなどを用意し、来館者が一日をとおして美術館で楽しく過ごせるように工夫した。また「日本の新進作家VOL.6 スティル／アライヴ」では来館者の参加、ボランティアの協力を得て「回転回ライブ」作品制作を行い、交流を深めた。

お正月開館告知（JR恵比寿駅）

お正月開館
エレベーター装飾

お正月開館風景（雅楽コンサート2点）

「回転回LIVE！シャトーレストランジョエル・ロブション」
2007年、撮影協力：恵比寿ガーデンプレイス）

## 10　トワイライトカード

木、金曜日の夜間開館時に展覧会に入場したお客様向けに、夏休みから新たに「トワイライト・カード」サービスを開始した。木・金曜日の17時30分以降に展覧会に入場した方に、1展覧会につき1ポイントを付与し、3ポイント獲得で粗品を贈呈し、6ポイント獲得すると当館で開催の1展覧会に招待する特典がある。トワイライト・カードの有効期限は、初めのポイントを付与した日から1年間であり、ポイント交換は、トワイライト・カードの有効期限内としている。

3月31日現在、トワイライト・カード配布人数　1,921人、3ポイント獲得者数247人、6ポイント獲得者数43人

## 保存科学研究室

**我が国最初の写真の保存・修復に関する当研究室では，写真保存用包材、修復用材料などの写真適正試験をはじめ、各種写真の保存条件、展示照明条件などの最適化研究を行っている。また、画像劣化原因の排除、劣化画像の復元処理などを含めた保存科学全般にわたる調査研究を進めている。**

### 1　今年度の研究内容

千葉大学との共同実験として、過年度では燻蒸処理によって生じる写真画像への影響と長期保存性に関する研究、そして長期保存でのゼラチンの変性の検証を目的とした、ゾルフラクション法によるゼラチンバインダーの劣化分解の検出を提案した。

文化財における燻蒸処理は収蔵する際の一度とは限らず、貸出等により数年の間には複数回の処理が為される場合もある。平成19年度は再燻蒸処理をした場合に、各種の写真画像およびゼラチンバインダーに与える影響を調査した。

現在一般的な燻蒸処理は、再燻蒸処理をしても適切な処理方法を選択することによって、主な写真画像に影響を及ぼす可能性が低いことを確認できた。同様にゼラチンバインダーへの影響も今回の方法では検出されず、劣化分解に対して直接影響しないと考える。

この実験結果については、2008年度文化財保存修復学会第30回記念大会・ポスターセッションにて報告予定である。

### 2　教育・普及活動

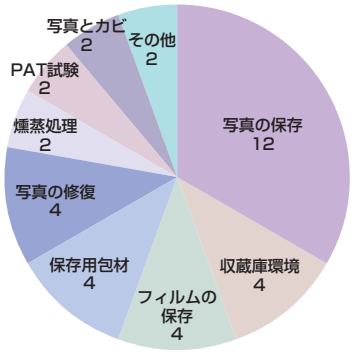
平成18年度に引き続き、一般の方々に美術館の施設・舞台裏を紹介する写真美術館ガイドツアーが開催された。当研究室内では，古典写真のサンプルを見せながら技法の解説および写真の保存方法等について概説した。

館内のみならず、外部からの写真保存に関する問い合わせに応じることも当研究室の重要な業務となっている。問い合わせ内容および件数を図1に示す。白黒・カラー写真やフィルムの保存方法のほかに、収蔵庫環境、修復についての問い合わせが寄せられた。この事実は、写真が二次資料的扱いから見直されていることを示し、それと共に写真を収蔵している美術館や文書館などが、写真・フィルム・ガラス乾板の保存や保存環境の整備に着手し始めた結果と考えられる。

平成19年度は10週間に渡るインターン生1名を受け入れ、作品の保護処理や収蔵作品のコンディションレポートの作成を通して、写真技法や材料に応じた適切な保存方法を指導した。

さらに、スクールプログラム、博物館学学芸員研修、歴史資料取扱機関連絡協議会の研修会、日本写真学会誌への執筆や日本写真学会および図書館でのセミナーを通じて、写真保存の普及・教育活動もおこなっている。

**図1. 問い合わせ内容および件数**




＊PAT (Photographic Activity Test)

### 3　収蔵作品の保存環境整備

過年度における当研究室の実験の結果、従来の輸入保存箱に使用されている糊や、透かし模様がある弱アルカリ性の間紙は、写真画像に及ぼす悪影響の可能性を示唆した。

その結果を踏まえ，平成15年度より行ってきたJISK7617（写真包材の写真画像への影響度試験方法）に合格した国産品への交換は、写真作品では終了した。引き続き、映像作品において保存箱の交換を行っている。

購入・寄贈・寄託によって毎年収蔵庫へ新規作品が入庫する。新規収蔵作品の適切な収蔵処理、保存箱の作製は随時行っている。また、収蔵作品の保護処理、修復は継続している。平成19年度はダゲレオタイプ2点にガラスの交換と周囲のシーリング処理をした。

また、収蔵庫・作業室・展示室の環境維持のため、29カ所に簡易計測紙を吊り下げ、毎月1回空気質のモニタリングを実施している。これは、コンクリートから放出するアルカリガス、あるいは木材等からの酸性ガスによる空気汚染をpH値で検討するためである。これによって、画像劣化原因になる有害ガスを放出する物質（塗料、糊、ダンボール等）の有無を確認する事が出来る。また、空調フィルター（酸性・アルカリ・有機酸除去）効果の持続を知る手立てにもなっている。

さらに有機酸とアンモニアのみに反応する、簡易計測紙より正確なパッシブインジケータ®を使用し、空気環境の雰囲気を測定して、ケミカルフィルタの構成を適正にした。

また、光による画像劣化を助長させず、館内展示や貸出の日数、あるいは展示照度の管理をするために、写真技法ごとの最大年間累積照度を設定した。

今年度は以下の収蔵作品に保護処理をした。

・題不詳（母と二人の子供の肖像）（資料番号20003864）
ダゲレオタイプの保護ガラスとして使用されているソーダガラス内側に汚れが認められたため、ガラスの交換を行った。ダゲレオ本体とカバーガラスを留めていたテープがガラス表面までかかっておらず、空気中の写真画像に有害なガスが入る可能性があったため、テープの貼り直しをした。そのフレームの周辺テープは、革ケースの色に合わせて彩色し、ガラス、オーバーマット、ダゲレオ本体は寸法が異なったため、マットを重ねて補正した。

・題不詳（家族4人のポートレート）（資料番号20100076）
作品には、丸い金属のオーバーマットに沿って茶色の変色が見られた。上部中央に4,5箇所に小さな丸い青みがかった変色があり、保護ガラスの内側に汚れ、またガラスの劣化と見られる細かな水滴が認められた。フレームを解体し、ガラスの交換、マットを重ねた寸法補正、フレームの周辺テープの貼り直しをおこなった。

## ●20003864（ダゲレオタイプ）

保護処理前

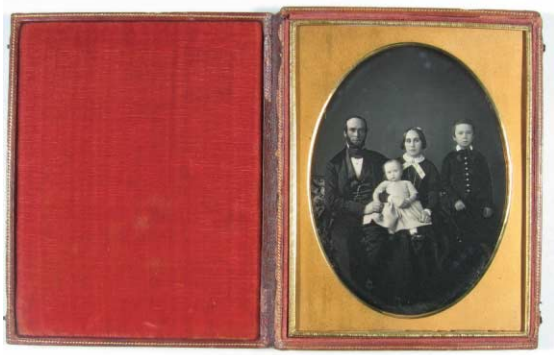
金属オーバーマット

保護処理後

## ●20100076（ダゲレオタイプ）

水滴が見られるガラス

処置後・裏側


保護処理後

## 図書室

**写真・映像に関する専門図書室として、国内外で出版された写真集を中心に、評論、写真史・映像史、技法書、一般美術書、展覧会カタログ、専門雑誌、美術館ニュース、パンフレットなどの収集、整理、保存を行い、一般に公開している。なお、写真美術館の展覧会準備としての調査・研究に必要な資料・情報の提供も行っている。**

### 1　図書資料の収集

平成19年度受入冊数

| | 和書 | 洋書 | 和雑誌 | 洋雑誌 | 年間増加冊数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 購入 | 87 | 21 | 0 | 0 | 108 |
| 寄贈 | 564 | 130 | 0 | 0 | 694 |
| 小計 | 651 | 151 | 0 | 0 | 802 |

蔵書総数　59,615冊

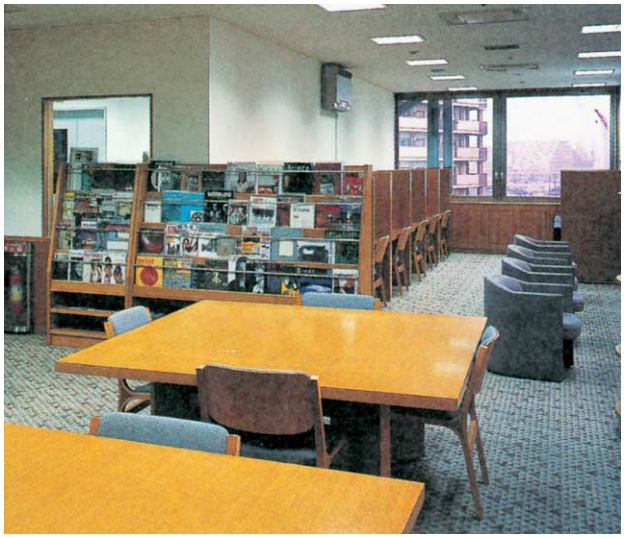
### 2　図書資料の整理

（1）特別整理

平成20年3月2日（日）～12日（水）の期間にシステム変更に伴う作業を行った。

（2）図書資料保存対策

破損等のある図書資料の製本・修復（外部委託）をすることによりその保全を図った。また、中性紙箱・保存用封筒等を活用し保存に努めた。



図書室内風景

### 3　図書館システムの変更

平成18年度よりシステムのリプレイスの検討を開始した。従来は、美術館収蔵作品と図書室資料を一元管理するシステムであったが、業務プロセスの見直しを行い、図書室は、国立情報学研究所（NII）のオンライン目録システム(NACSIS-CAT）に対応した図書館システムを導入することにした。平成19年度からは、より具体的に新システムに求める機能要件、データ移行要件、ネットワーク要件等の検討を重ね、システムおよび機器の選定を行い、本格的な移行作業に入った。平成20年3月のネットワーク工事、機器の入れ替え、サンプルデータによる仮運用期間を経て、平成20年4月より新システムが本稼動する予定である。

### 4　サービス業務

（1）閲覧サービス

図書室は一般公開しているが、館外貸出は行っていない。資料は、閲覧室に設置したコンピューター2台で検索できるようにしている。インターネット上で蔵書検索（図書のみ）ができ、美術図書館横断検索（Art Libraries'Consortium）へも参加している。平成19年10月より火・水曜日のみ受付時間帯を10:00～17:30とし、利用者サービスの向上に努めた。また、「新着図書コーナー」、「展覧会関連図書コーナー」を設け継続的に展示を行っている。展覧会ごとの展示状況は下記のとおりである。

単位（冊）

| 展　覧　会　名 | 図書 |
|---|---|
| 昭和 写真の1945～1989 第1部オキュパイド・ジャパン | 31 |
| 昭和 写真の1945～1989 第2部<br>ヒーロー・ヒロインの時代　昭和30·40年代　Part.1 | 28 |
| マーティン・パー写真展　FASHION MAGAZINE | 15 |
| キュレーターズ・チョイス 07　対話する美術館 | 10 |
| 昭和 写真の1945～1989 第3部<br>高度成長期　昭和30·40年代　Part.2 | 28 |
| 鈴木理策：熊野、雪、桜 | 21 |
| 昭和 写真の1945～1989 第4部<br>オイルショックからバブルへ | 29 |
| 東松照明：Tokyo 曼陀羅 | 4 |
| 土田ヒロミのニッポン | 25 |
| 知られざる鬼才　マリオ・ジャコメッリ展 | 13 |

(2) レファンスサービス
写真、映像に関する図書資料についての質問および所蔵状況についての問い合わせに応じている。来室者からの問い合わせの他、電話、文書での問い合わせにも応じている。
これらの質問についての回答のうち、今後のサービスに役立つものは、記録票を作成し、ファイルして活用している。

(3) 複写サービス
当室所蔵の資料について著作権の範囲内で複写サービスを行っている（モノクロのみ）。

### 5　平成19年度　利用統計

| 月 | 開室日数 | 入室者数 | 出納冊数 | レファレンス件数 | コピー枚数 | Web版OPAC訪問数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 26 | 2,438 | 1,132 | 174 | 965 | 3,135 |
| 5月 | 27 | 2,503 | 1,007 | 179 | 786 | 3,502 |
| 6月 | 26 | 2,627 | 1,562 | 212 | 1,430 | 3,370 |
| 7月 | 27 | 2,568 | 1,721 | 187 | 1,206 | 3,980 |
| 8月 | 27 | 3,028 | 1,383 | 204 | 1,088 | 3,445 |
| 9月 | 26 | 3,176 | 1,198 | 226 | 1,277 | 3,533 |
| 10月 | 27 | 2,571 | 1,242 | 213 | 1,102 | 3,319 |
| 11月 | 26 | 2,338 | 1,458 | 198 | 1,513 | 2,874 |
| 12月 | 24 | 2,014 | 1,052 | 195 | 1,027 | 2,743 |
| 1月 | 23 | 2,262 | 1,172 | 224 | 1,361 | 3,287 |
| 2月 | 23 | 2,205 | 1,084 | 169 | 976 | 3,213 |
| 3月 | 17 | 1829 | 927 | 186 | 469 | 3289 |
| 合計 | 299 | 29,559 | 14,938 | 2,367 | 13,200 | 39,690 |
| 一日平均 | | 99 | 50 | 8 | 44 | |

### ● その他

(1) 展覧会への貸し出しは7件104冊であった。
「キュレーターズ・チョイス 07　対話する美術館」では、B1F展示室内に司書の選んだ写真集（6冊）をケース展示し、フロアレクチャーに参加した。閲覧室内においてもライブラリアンズ・チョイスとして図書（10冊）の展示を行った。

(2) 図書室への見学は17件、取材は5件であった。

(3) 博物館学実習の一環として実習生12名を受け入れた。
別にインターン生3名を受け入れた。

(4) 職場体験実習として中学生2名を受け入れた。

(5) 図書室利用者サービスに関するアンケートを実施した。
（平成19年11月15日～平成20年2月29日）

(6) 図書室利用案内を新規に作製した。

(7) ALC参加館でカタログ交換を実施した。
当室より8件50冊を寄贈し、他の参加館より28冊の寄贈を受けた。

B1Fフロアレクチャー風景

展覧会にあわせた特集コーナー「土田ヒロミのニッポン」

## 実験劇場

**当館の新しいあり方を工夫するとともに館の活性化を図るための試みとして、平成12年度から将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品等写真美術館にふさわしい映画を、1階ホールで上映している。近年は、写真美術館の特色を示すため、「アート＆ヒューマン」をテーマに作品を選定することに重点を置いている。**
**宣伝、告知に関しては、配給会社のネットワークにより、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、駅広告など幅広く告知するとともに、ターゲット層をねらったチラシ配布などで宣伝を行っている。**

### 地球交響曲第6番

上映期間　平成19年4月28日（土）～6月8日（金）
37日間

シリーズ第6弾となる本作では「全ての存在は響きあっている」をテーマに、この世の全ての存在を繋ぐ耳に聴こえない音楽（虚空の音）を描き出す。地球の未来にとって示唆にあふれたメッセージを持つ賢人達のインタビューを含むオムニバスドキュメンタリー映画。
期間中の毎水曜日に監督のトークを実施。また、期間後半には今までのシリーズを一挙上映する特別プログラムを組み、大変好評を博した。
配給：龍村仁事務所

### 「パラダイス・ナウ」

上映期間　平成19年3月10日（土）～4月27日（金）
23日間（平成19年4月1日からの上映日数）

パレスチナ暫定自治区ヨルダン側西岸の町で暮らす幼馴染みの二人。人々は貧困に苦しみ、時折ロケット爆弾が飛んでくるこの地で、二人の生活にあるのは占領という事実だけだった。パレスチナの若者が自爆攻撃に向かう48時間の葛藤と友情を描いた問題作。上映に先駆けて、監督来日トークイベント＆試写会を開催。
◎2006年ゴールデングローブ賞最優秀外国語作品賞受賞作品
◎2005年ベルリン国際映画祭観客賞受賞作品
配給：アップリンク

### 星影のワルツ

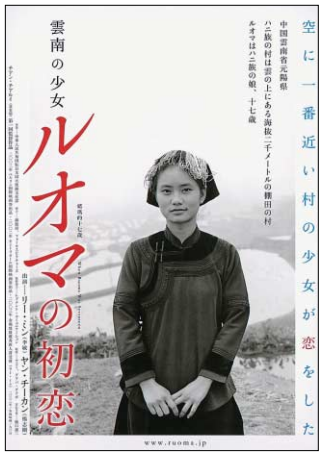
上映期間　平成19年6月9日（土）～6月15日（金）
6日間

写真家若木信吾が99年に発表した写真集「Takuji」。04年に他界した彼の祖父、琢次さんが撮影された写真は、琢次さん演じる上方漫才の巨匠、喜味こいしを得て『星影のワルツ』という一本の映画として動き始めた。ドキュメンタリー以上にリアルで切ない作品。
配給：CKエンタテインメント

## 雲南の少女　ルオマの初恋

上映期間　平成19年6月16日（土）～7月27日（金）
37日間

青々と果てしなく続く雲南の大地。17歳のハニ族の少女ルオマは、写真家を目指し都会からやってきた青年に恋をしてしまう。ユネスコ世界自然遺産でも知られ、雲の上海抜2千メートルの神々しい棚田を舞台に、純真無垢な少女の魂を描く初恋物語。ホール前にはハニ族の衣装を展示。
◎2003年金鶏奨最優秀新人賞（リー・ミン）作品
配給：ワコー




## THE　3名様　2周年、そめでとう！小祭

上映期間　平成19年7月28日（土）～8月3日（金）
6日間

2007年8月3日で2周年を迎えたDVD作品「THE3名様」。めでたい2歳の誕生日を記念して開催された夏休み特別上映では、シリーズの特集上映（全回トークイベントあり）のほか、衣装、写真パネル、小道具等々をロビーにて展示。
配給：アットムービー

## おやすみ、クマちゃん

上映期間　平成19年8月4日（土）～9月14日（金）
36日間

1975～87年にかけ、ポーランドのTVで放送された人形アニメシリーズから10本を上映。毎回おやすみ前のクマちゃんが一日の出来事をお話ししてくれる。クオリティの高い芸術性も必見。吹き替えは子供に大人気のケロポンズ。ぬりえ付き前売り券（子供用）のぬりえをホール前に展示するなど、夏休みらしいイベントとなった。
配給：エデン

## マザー・テレサ　メモリアル
### 母なることの由来＋母なるひとの言葉

上映期間　平成19年9月15日（土）～10月19日（金）
31日間

世界で最も尊敬される女性マザー・テレサ。彼女の活動を5年に渡り追い続けた記録映像「母なることの由来」のデジタル復刻版と、生前のマザー自らが語る言葉とその言葉を継ぐもの達の証言などが記録された意欲作「母なるひとの言葉」を上映。9月5日のマザーテレサの命日には、記念上映会＆座談会を開催。
配給：ナインマイルズ

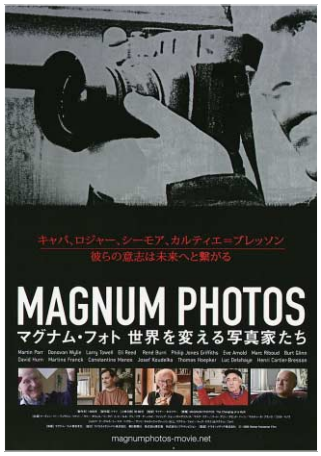
## ショートショートフィルムフェスティバル&アジア

上映期間　平成19年10月25日（木）～10月28日（日）
4日間

ショートショートフィルムフェスティバル＆アジア2007の受賞作品を一挙上映。最終日にはワークショップを開催。
配給：実行委員会

## マグナム・フォト　世界を変える写真家たち

上映期間　平成19年12月1日（土）～平成20年1月18日（金）
36日間




“世界最高の写真家集団”マグナム・フォト。マグナムを率いる中心会員16人のインタビュー他、マグナムの知られざる内側に初めてカメラが潜入。輝かしい歴史を振り返りつつ、新たな時代へと意欲をみなぎらせる彼らの姿をとらえたドキュメンタリー作品。試写会も実施。クリスマスにはデジタルカメラや写真集が当たるプレゼント抽選会を開催。お正月には「アンリ・カルティエ＝ブレッソン／瞬間の記憶」と併せて、特別上映を行った。
配給：ナウオンメディア

## カルラのリスト

上映期間　平成19年11月10日（土）～11月30日（金）
18日間

国連の旧ユーゴ国際刑事法廷、検察官カルラ・デル・ポンテ。任期終了が迫る今日、彼女の姿を追う本作品は、ドキュメンタリー史上初めて、国連裁判所の舞台裏の撮影が許可された。日本の国際刑事裁判所（ICC）加盟を機に上映。上映に先駆け、試写会＆シンポジウムを開催。
配給：アップリンク

## ハーフェズ　ペルシャの詩（うた）

上映期間　平成20年1月19日（土）～3月1日（土）
35日間

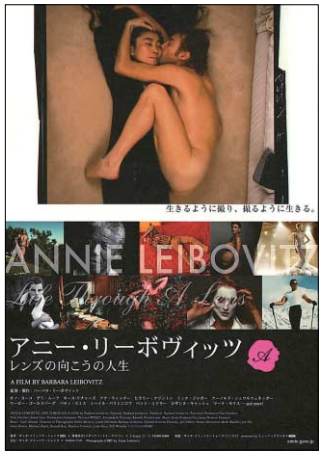
美しい衣装や雄大な砂漠の景色を背景に、ゲーテにも影響を与えたと言われる、詩人ハーフェズの詩にインスパイアされた美しい愛の神話。顔を合わせることなく詩を通じて恋に落ち、立場の違いから引き離される運命の二人を描いたイラン版「ロミオとジュリエット」。
◎第2回ローマ国際映画祭
　審査員特別賞受賞作品
配給：ビターズエンド

## 長江哀歌（ちょうこうエレジー）

上映期間　平成20年3月8日（土）～3月14日（金）
　　6日間

2千年の歴史を持ちながら、ダム建設によって伝統や文化、記憶や時間も水没していく運命にある古都・奉節（フォンジェ）を舞台に綴られる二人の男女の物語。その二人を中心に、時代の大きなうねりに翻弄されながらも日々を精一杯に生きる人々の、小さくも愛おしく輝く一瞬を感動的に捉える。
◎2006年ベネチア国際映画祭金獅子賞受賞作品
配給：ビターズエンド

## アニー・リーボヴィッツ
## レンズの向こうの人生

上映期間　平成20年3月15日（土）～4月4日（金）
　　14日間（平成20年3月31日までの上映日数）

女性写真家として世界中で活躍を続けるアニー・リーボヴィッツ。プロの仕事人として、女として、母として、時に悩み、傷つきながらも強く、自由に生きるアニーの姿を、世界中のセレブレティへのインタビューや撮影裏話を基に描き出す。
配給：ギャガ・コミュニケーションズ